



荒川 義孝 議員

第6次高浜市総合計画の進行管理と第7次高浜市総合計画の考え方及び策定プロセスについて

問 後期基本計画もあと1年半だが、4つの基本目標の現在までの進捗状況は。

答 市民意識調査の結果から判断すると、基本目標は11の指標があり、9つの指標で5割以上、うち6つの指標で6割以上と、市民の皆様には良い評価をいただいている。

問 第7次総合計画の策定にかかる新型コロナウイルス感染症の影響については。

答 今後の高浜市および社会全体を取り巻く環境・課題・取組みもウイズコロナ、アフターコロナを踏まえた検討が必要。当初の予定より策定準備が遅れており多くの市民を集めての意見交換も難しく、第7次総合計画の策定期間を1年延期できないかと検討をしている。

問 次期計画の策定期間を1年延期に伴い、現行の第6次総合計画についてはどうなるのか。

答 基本目標の修正等はず、基本目標及び個別目標に紐づくアクションプランとともに1年間延長し、掲げる指標については、所要の経年補正等を行い必要に応じて修正を行う。

問 第7次総合計画を今後策定していく上で、新たに取り組むべき諸課題については。

答 ウイズコロナ・アフターコロナ中で、従来とは取り組み方が変わってくると想定している。SDGsという概念を盛り込み、計画の進行管理は、よりデータを活用した客観的な分析ができ、より簡便な仕組みとなるよう検討する。

生涯学習基本計画における拠点施設について

問 多様な形でまなびの成果や知識、技能、経験等を活かせる発表の場づくり、ライフスタイル、ステージに応じたプログラムの企画・創出について、「たかぴあ」をどう活用していくのか。

答 世代等に応じた教室の開催など予定している。また、複合施設という特徴を活かし、例えば児童センターの子どもたちが、スポーツクラブやあかおにどん、くりっくの方々と交流を図り、子どもたちの社会性や経験値を高めるような機会について創出していきたいと考える。



柳沢 英希 議員

道徳教育について

問 道徳が教科化され小学校で2年、中学校では1年を経過するが。

答 高浜市では、教科化後も時間数に変更はない。教育委員会は、教職員に年間授業時数を満たすよう計画的な実施を依頼。週案を確認し、全授業の実施状況を把握し、必要に応じて指導している。

問 道徳の評価はどのようにされているか。

答 児童生徒が多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているのかという点を重視。他の児童生徒との比較評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを評価。数値評価でなく記述式評価である。学習活動中における児童生徒の発言や記述、考えを深めようとしたりする姿に着目して評価。学年末に評価を保護者に伝えることで、さらなる成長を促すとともに、教員自らの指導の改善にも努めている。

問 教育の現場や学校での課題は。

答 授業参観時でも保護者同士で大きな声で話したり、行事で違法駐車したりといった、他人に迷惑をかける行為なども見受けられる。身近な大人が手本となる姿を見せられるよう、いかに理解をしていただき、協力を得られるようにできるかが、課題である。

問 今後、道徳教育をどのように進めていくか。

答 考え、議論する道徳の授業づくりを大切に、児童生徒が、「問題意識をもって授業に臨む」、「自分との関わりで捉え、考える」、「多面的・多角的に考える」、「自らをふり返り、自己の生き方について考える」ことができるような授業を展開していく。教材を使って生き方を学ぶのが道徳科の本来の学習である。

子どもたちの実態を把握し、意図的な発問や、活発な対話を生み出す授業づくりによって、人間としてよりよく生きようとする道徳性を養い、それを構成する「道徳的判断力」「道徳的心情」「道徳的実践意欲と態度」を育てることを目標として、考え、議論する道徳の実現を図っていく。